

Making English more accessible

英語をもっと身近に



Shuangyong ES



上小原小学校

Chung Dau Bilingual ES



西原小学校



国立台北教育大学附属小学校



鹿屋小学校・東原小学校



- Meet and mingle -

台湾と鹿屋市の交流 小学校の交流

今年度に本市を訪問した3つの台湾の小学校と市内小学校の交流の様子を紹介します。

- English -
もっと英語を話せるように - 隼大さん -

私は日本舞踊を習っていることから、歓迎会で日本舞踊を披露し、台湾の人に日本の文化を見てもらえたことがうれしかったです。ホームステイでは、英語で会話をすることが難しく、もっといろいろなことを話してみたいです。この経験を通して、もっと英語を話せるようになりたいと思っただので、普段の英語の授業でも積極的にハキハキと英語を話すようにして、少しでも英語でコミュニケーションを取れるようになっていきたいです。



▲令和5年7月にチャンダウバイリンガル小学校の児童が本市を訪れた際、隼大さんが歓迎会で日本舞踊を披露しました

- International exchange -
国際交流で英語をより身近に

現在、鹿屋市では11校が台湾の小学校と協定を結んでおり、昨年度から英語の授業で協定先の小学校と動画によるメッセージ交換やリモートでの交流を行っています。また今年度からは実際に台湾の小学校の児童が本市を訪れ、授業や学校生活での交流、ホームステイ等を通して国際交流を実施。普段の生活で外国の人と触れ合う機会がない児童にとっては、こうした機会に授業で学習した表現が実際に相手に伝わることを体験できるのはとても新鮮な経験になっています。

私が担当している学校でも、オ

- Homestay -
ホームステイを受け入れてみて - 三奈さん -



西原小学校6年生 母親
まつした 隼大さん・三奈さん

主人がアメリカでホームステイをしながら現地の学校に通っていたので、台湾の子をぜひ受け入れてみたいという気持ちがありました。実際にホストファミリーを経験して、英語でコミュニケーションを取ることの難しさや食文化の違いなどを感じましたが、翻訳アプリを使いながらなんとか会話をし、私自身にとっても、子どもにとっても貴重な経験になったと感じています。今後もこのような異文化交流の機会があれば、積極的に家族で参加し、英語に触れていきたいです。



▲1月に国立台北教育大学の教育実習生が授業を行った際には、円滑に授業が行われるよう児童のサポートを行いました



なかむら まほ
中村 真穂 英語指導講師

オンライン授業の時はみんな緊張していて「何と言っているかわからない」と不安そうにしている児童もいました。しかし授業が進むにつれて、学習した単語やジェスチャーを頼りに相手の言葉を理解したり、自分の言葉が相手に伝わったりしたことで、少しずつ楽しんでコミュニケーションを取れるようになってきました。回数を重ねるにつれて、台湾の児童と交流することに慣れていき、通常の授業の一環としてオンライン授業を緊張することなく前向きに参加できていると感じています。

今後オンライン授業や対面交流などを通して、多くの児童が英語に触れ、少しでも英語で話すことを楽しいと思ってもらえるように、サポートをしていけたらと思っています。